

(イ) 現地情報から出没しているクマを分析

出没しているクマの大きさや行動パターンから、被害地域への執着度合などを分析します。その時のポイントは3つです。

① 足跡の大きさ

成獣の平均的な足の大きさは長さ約 17cm／幅 12cm です。足跡の測り方は9ページの足跡の項目を参考にしてください。

年齢の目安			
補足	好奇心旺盛で、自分の行動範囲を確立するために活発に動き回る。老齢・大型のクマに山から追い出され、里付近を徘徊することもある。	寄り添うように小さな足跡がついている場合は親子グマの可能性あり。	警戒心が強く、さまざまな経験を経た中で生き残ってきた、慎重なクマ。
出没季節と行動	主に6月中旬から8月中旬にかけて里に出没する。被害前には里周辺の食べ物やそこに至るまでのルートを探察して回る行動がみられる。この時期の里への執着はさほど強くはなく、花火の追い上げなどで、あっさりと引き下がることもある。	雄の場合は7月中旬頃から里に出没する。里への出没を重ねている可能性が高く、ピンポイントで被害地域へ出没をする。親子の場合は6月から7月の繁殖期と夏の被害時期に出没している雄を避けるため9月から10月上旬の時期に里に出てくることもある。	被害のピークが過ぎた秋口に出没。過去の経験からどこにどんな食べ物があるか知っていて、ピンポイントで出没することが多い。檻や扉など人工物の開け方を覚えてしまうこともある。

② 頻繁に出没しているのかを知る（何度も同じ場所に出没する場合は、明らかな誘引物が存在するはずですが。その誘引物を除去すれば出没がなくなるレベルなのか、それとも、明らかな誘引物をきっかけに地域への出没を繰り返すレベルまで来てしまったのか。）

③ 足跡などから親子、成獣（大型）、若いクマなのかを知る（大まかなクマの年齢による行動傾向は上の表のとおり）